

新春初出式・レポ

坂東 久平

1月5日ならやま活動の初日にあたり初出式と10年継続会員記念植樹式が行われた。

冬らしい寒い日であったが、70名の会員が参加して初出に相応しい賑やかな一日であった。

初出式と餅つき

千載会長の挨拶、「昨年度は7件の怪我(保険対象)があった。今年は気を引き締めて安全第一で活動をしていきましょう」との発言があった。

コロナの感染は収まってはいないがウイズコロナで、3年振りで餅つきが復活した。餅つきと七草粥の準備で、石臼の据え付け、3基の釜で湯沸かし、蒸籠の準備など手際よく作業が進む。粥に入れる七草(セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)も揃えられた。



各グループも活動を切り上げ10時半頃にベースキャンプに集まり、餅つきが始まった。ベテランの鈴木前会長や千載会長に続き、卯年の年男、年女や力自慢が杵を振るった。

昼食の時間となり出来上がったお餅(きな粉餅とおろし大根餅)七草粥が全員に振る舞われ、熱々の七草粥で寒さを吹き飛ばした。さらに追

加で黒米入り餅、白餅が配られ満腹の幸せをかみしめた。



10年継続会員記念植樹式

昼食後、ベースキャンプに近い藤棚(昨年の記念植樹)で10年継続会員の表彰があり、今年の対象者は10名で、有元康人、池田富子、太田和則、小島武雄、辻本信一、中川瑛雄、坂東久平、松本武彦、山本妙子、山本隆造の各氏で、この内8名が参加した。

昨年と同じ「九尺フジ」が藤棚の対角に植えられた。2本フジが成長し立派な藤棚となり、9尺の花を見せてくれるのを期待している。



千載会長から10年間の活動に労いの言葉があり、10年継続会員を代表して、坂東から入会当初に第5区(実りの森)で身の丈を越す熊笹と格闘した思い出や「健康の許す限り活動を続けたい」との挨拶があった。